

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H01643

研究課題名(和文) 古道・関塞遺址調査に基づく前近代中国主要交通路の研究

研究課題名(英文) Research on major traffic routes in pre-modern China mainly based on surveys of pass, ferry and road sites

研究代表者

辻 正博 (Tsuji, Masahiro)

京都大学・人間・環境学研究所・教授

研究者番号：30211379

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 24,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、コンピュータを用いた地理情報処理(GIS)、種々の歴史写真の分析、中国人研究者との協業による交通史に関わる史跡調査といった多角的な研究方法を組み合わせ用いることにより、古道・関塞(関所、渡し場、橋など)遺址を時間軸・空間軸の双方から分析・考察を行った。地理情報が厳しく制限されている中国大陸をフィールドとする調査において、豊富な情報を含む衛星写真の活用は、従来の研究の限界を打破するのに極めて有用であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、前近代中国の関所・渡し場・橋および交通路を主要な研究対象として、伝世文献・出土資料・現地調査(史跡調査)等から得られるデータに基づき、研究対象となった關津の往時の姿と現在の状況とを明らかにすることを目的とした。1990年代以降、中国大陸では猛烈な勢いで都市の再開発や高速鉄道・高速道路網の整備が推進されており、その地貌は急速に変化している。それに伴い、交通史関連の遺跡が相次いで発見される一方、歴史的に重要な意味をもつ道路遺構が思いがけず破壊されることも間々ある。21世紀初頭のこの時期に本研究を実施し、研究成果をまとめたことは、学術的にも社会的にも大きな意義をもつと確信している。

研究成果の概要(英文)：This study analysed and examined ancient roads and ruins of pass, ferry and bridges in terms of both time and space by using a combination of multifaceted research methods, such as computer-based geographic information processing (GIS), analysis of various historical photographs and survey of historical sites related to the history of transportation in collaboration with Chinese researchers. The use of satellite photographs, which contain a wealth of information, was extremely useful in breaking through the limitations of conventional research in the field in mainland China, where geographical information is severely restricted.

研究分野：中国中世政治制度史

キーワード：近代以前の中国 關津 交通路 古道

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

皇帝独裁による中央集権体制が長らく続いた中国では、国都を中心とした交通網の整備に力が注がれた。交通の要衝に閉塞を置いて人やモノの移動を管理することは、王朝統治の安定のために不可欠であり、逆に閉塞の制禦を失うことはしばしば王朝の滅亡に直結した。前近代中国の交通路について、閉塞の果たした役割に着目して研究を理由はここに存する。

中国交通史の分野でこれまでに発表された国内外の研究成果には、以下のようなものがある。青山定雄『唐宋時代の交通と地誌地図の研究』(1963)は、依然として当該時代に関する交通史研究の代表的著作であり、巖耕望『唐代交通図考(1~6)』(1985~2003)は、伝世文献を駆使した優れた研究である。また、鈴木靖民・荒井秀規編『古代東アジアの道路と交通』(2011)は、文献資料と現地調査を融合した研究であるといえる。

しかしながら、青山定雄・巖耕望両氏の研究は、伝世文献資料の活用を終始している。無論、梁史の研究が行われた当時の研究環境の制約があるにせよ、現状から見れば不満な点も多い。鈴木氏らの論集は、新出の資料や現地調査の成果をふまえたものであるが、なお調査を進める余地があるように思われる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近年次々と発見されている道路遺構(古道)と閉塞遺址を研究対象とすることにより、前近代中国の主要交通路の具体像を時間軸・空間軸の双方から明らかにする点にある。平成25年度(2013)~平成28年度(2016)の4年間にわたって交付された科学研究費補助金 基盤研究(B)(一般)「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」で得られた研究成果が本研究の出発点となる。研究代表者・研究分担者および研究協力によるこれまでの研究成果を基礎としつつ、更なる調査地点の拡大と精度の向上を図り、前近代中国における交通路と閉塞の設置意義、歴史的役割、環境変化との関わりについて、新知見の獲得を目指す。

本研究が目指す到達点は、以下の3点である。

- A. 前近代中国の主要な道路遺構と閉塞遺址について、伝世文献による調査とGISによる分析を行った上で現地調査を行い、道路・閉塞の設置理由(なぜそこに存在したのか)を解明する。
- B. Aで得られた知見をもとに、古道・閉塞の歴史的変遷を解明する。伝世文献・歴史写真を仔細に分析する一方、フィールド・考古学的調査による結果を精査し、前近代中国の主要交通路がそれぞれの時代にどのような具体像を有していたのかを明らかにする。
- C. A・Bの成果に拠りつつ、道路・閉塞が自然環境の変化にどのように対応してきたかについて考察する。人類の営みが自然環境の影響を受けるのは必然であるが、中国交通史には従来こうした観点が欠落していた。前近代中国の交通における自然環境の変化と人類の対応(挫折と克服)に注目した歴史地理的検証は、この分野における新鮮な分析視角である。

3. 研究の方法

前近代中国の古道・閉塞遺址から現地調査が可能な地点をリストアップし、伝世文献・歴史写真・GISによる多角的な分析を事前に行った上で、現地での考古学的調査・フィールド調査を実施する。調査実施後には再び会合を開き、現地で得た情報を事前に分析した諸データと照合し、以下の観点から検討を加える。

- A. 古道・閉塞遺跡の設置理由と立地上の特徴
 - B. 古道・閉塞の歴史的変遷、各時代における具体的様相
 - C. 道路と閉塞が自然環境の変化にどのように対応してきたのか
- 具体的な調査内容は、以下の通りである。

1. 伝世文献資料の網羅的収集.....地方志を中心に関連資料を収集
2. 歴史写真(古写真)資料の収集.....国内研究機関が所蔵する写真資料の調査、近代以降に出版された書籍・雑誌所掲の写真資料の調査
3. 衛星写真画像を中心とした地理情報の収集.....CORONA 衛星写真、AW3D(全世界デジタル3D地形データ) WorldView(衛星画像)の収集と分析
4. 近現代中国の人文地理資料から関連資料を収集
5. 現地調査の実施.....古道遺址が存在する地域に赴き、史跡調査を行う。主要な調査地点は以下の通り。

秦直道遺跡(陝西省・内モンゴル自治区) 大散関遺跡・連雲棧道・褒谷棧道・統万城遺跡(陝西省)、太行陘(山西省)、沁河谷棧道遺址・轅轅関(河南省) 玉門関遺跡・寿昌城遺跡・懸泉置遺跡・鎖陽城遺跡・冥安県城遺址(甘肅省) 子午古道・沙河橋梁遺跡(陝西省) 紫荊関・鷄鳴駅・秦漢上谷郡城遺跡(河北省)

4. 研究成果

中国歴史地理研究は従来、伝世文献を主材料、陸地測量による地形図（中縮尺。10 万分の 1 地形図が主）を補助材料としてきた。しかし、文献記述には多少なりとも書き手の主観が含まれ、中縮尺の地形図（20 世紀前半に軍事目的で作成されたものが大半）には古道・関塞の立地を読み取るだけの情報量が不足している。かかる研究上の限界を如何に乗り越えるかが懸案とされてきた。

これに対して本研究は、20 世紀後半以降に本格的に始められた新たな学問分野の成果を中国歴史地理学研究に積極的に取り入れようとする点で画期的である。すなわち、コンピュータを用いた地理情報処理（GIS）、続々と公開される歴史写真の分析、中国人研究者との協業による考古学的調査・フィールド調査により、古道・関塞遺址を時間軸・空間軸の双方から分析・考察を行った。地理情報が厳しく制限されている中国大陸（精密な地図は軍事機密扱い。外国人による測量行為は厳禁）ではあるが、1 万分の 1 地形図に匹敵する詳細さをもつ現在の衛星写真と、「改革開放」以前（1960 年代が主）の中国大陸の地表情報を鮮明に捉えた CORONA 衛星写真とを併用することにより、情報不足に起因する先行研究の限界を十分に打破する成果を得られたと確信している。

研究メンバー各自による研究成果は後掲の通りであるが、全体の研究成果として、研究代表者を編者とする論文集『中国前近代の関津と交通路』を京都大学学術出版会より 2022 年 3 月に刊行したことを特に記しておきたい。以下、その概要を示す。

巻頭カラー口絵

解題 序に代えて [辻 正博]

凡例

第 部 関津 関所と渡し場・橋梁

第 1 章 衛星画像と地形データ（DEM）を利用した歴史的場所の検討 [小方 登]

1 歴史地理学研究への衛星画像の活用

2 数値標高モデル（DEM）の利用

3 洛陽盆地

4 潼関

5 潼関附近の土地区画と泗州城

6 鎮陽城

おわりに

第 2 章 潼関の廃置・移設と武則天の「神都圏」構想 [辻 正博]

はじめに

1 潼関の設置と隋の南北関城

2 武則天の「神都圏」構想と潼関の廃置

3 近世の潼関

おわりに

第 3 章 蕭関の機能的特徴と地理的位置についての一考察 とくに旧関関係史料の分析に重点を置いて [福原 啓郎]

はじめに

1 蕭関の沿革

2 詩跡としての蕭関

3 蕭関の機能的特徴とその否定的側面

4 蕭関の地理的位置

おわりに

第 4 章 黄河下流平原の「津」 リモートセンシングデータを利用した黄河古河道復元 [長谷川 順二]

はじめに

1 黄河下流平原の「津」に関する先行研究

2 戦国～唐代における黄河下流平原の「津」

3 黄河下流平原における「津」の変遷

今後の「津」研究に向けて

第 5 章 唐代の蒲津渡と東渭橋をつなぐ交通路 [宇都宮 美生]

はじめに 発見相次ぐ橋梁遺跡

1 唐代の黄河の蒲津渡

2 唐代の渭水の渭橋

おわりに 交通幹線道と渡津・橋梁

第 6 章 唐宋時代における僧侶の旅と交通 過所・公験・公憑 [松浦 典弘]

はじめに

1 唐以前における僧の移動に対する制約

2 唐代における僧の移動に対する制約

3 宋代における僧の移動に対する規制

4 過所・公験・公憑

おわりに

第 7 章 鷄鳴駅の変遷 堡・駅から観光施設へ [千田 豊]

はじめに

- 1 鷄鳴駅の成立と堡としての価値
- 2 清代の鷄鳴駅

おわりに

第8章 蜀道から考える関塞としての秦嶺 [小島 泰雄]

はじめに

- 1 蜀道
- 2 棧雲峡雨日記
- 3 関中盆地・宝鶏から漢中盆地・褒城への旅程
- 4 快速の秦嶺越

おわりに

第 部 交通路 街道と水路

第9章 黄巷・金徒関と潼関—関所の移置と街道の変遷 [辻 正博]

はじめに

- 1 黄巷・黄巷坂
- 2 金徒関—潼関の東に置かれた関門
- 3 20世紀以降の交通路の変化と潼関 結びに代えて

第10章 河西回廊における遺跡・交通路・オアシスの位置関係 漢代・唐代の敦煌と瓜州を中心に [森谷 一樹]

はじめに

- 1 榆林河～蘆草溝のふたつの扇状地と遺跡の分布
- 2 『唐代交通図考』にみえる唐代交通路の検証
- 3 蘆草溝オアシスのふたつの囲郭遺跡
- 4 懸泉置漢簡にみえる漢代交通路との比較

おわりに

第11章 太行陁・白陁古道の歴史的意義—古道関連の関塞・集落遺址調査を踏まえて [塩沢 裕仁]

緒言

- 1 太行陁の景観復元
- 2 白陁
- 3 太行陁および白陁古道関連遺跡

結語

第12章 武関道から商洛道へ 関中平原～南陽盆地間の交通運輸 [侯 甬堅(小野 響 翻訳、辻 正博 監訳)]

はじめに

- 1 商洛古道開鑿の地質学的前提
- 2 商洛古道の交通運輸と道路事情の改善
- 3 商洛山間部における近代的自動車道の登場
- 4 丹江水運における航行距離の短縮
- 5 商洛古道研究における未解決の諸問題

結論 外部地域による制約と商洛古道の交通運輸

第13章 前近代中国中原の穀倉の発展と交通路 実地踏査による新知見を交えて [宇都宮 美生]

はじめに

- 1 隋唐以前の穀倉の諸相
- 2 隋の穀倉とその運営
- 3 唐の穀倉とその運営

おわりに 穀倉と交通

第14章 破岡瀆—建康と三呉の間 [張 学鋒(千田 豊 翻訳、辻 正博 監訳)]

はじめに

- 1 破岡瀆の開鑿とその流路
- 2 建康と三呉の間
- 3 破岡瀆と六朝時代の海外交通

おわりに

第15章 前近代中国の運河 洛陽・揚州間の隋・唐・宋運河遺跡をたどって [宇都宮 美生]

はじめに

- 1 通遠渠と通済渠西部分 河南省洛陽と洛口(黄河合流点)の間
- 2 黄河—洛口・汴口間
- 3 通済渠東部分(汴河)—汴口・泗州間
- 4 旧淮河と洪沢湖
- 5 淮揚運河 淮安・揚州・瓜洲の区間

おわりに
あとがき [辻 正博]
索引(人名・地名・事項)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 辻 正博	4. 巻 77-2
2. 論文標題 唐律における流刑の本質 恩赦との関係を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻 正博	4. 巻 6
2. 論文標題 《政事要略》所引《會要》内容小考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法律史訳評	6. 最初と最後の頁 125-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻 正博	4. 巻 1
2. 論文標題 柏林国立図書館蔵《玉篇》残片小考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 絲綢之路と新疆出土文献 旅順博物館百年記念国際学術研究会論文集	6. 最初と最後の頁 569-574
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島泰雄	4. 巻 64-4
2. 論文標題 改革開放は中国をいかに変えたのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島泰雄	4. 巻 15
2. 論文標題 江門農村における開発と保護	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域と環境	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩沢裕仁	4. 巻 1
2. 論文標題 穀水(澗河)流域の標点遺跡と穀水古河道の遺構	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『水経注疏訳注』穀水編	6. 最初と最後の頁 5-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻 正博	4. 巻 4
2. 論文標題 神田本『白氏文集』巻第三裏書に見える「會要」記事について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国典籍日本古写本の研究 Newsletter	6. 最初と最後の頁 25-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小島 泰雄、筒井 一伸	4. 巻 12
2. 論文標題 田園回帰と地理学理論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 318-321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.12.318	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福原啓郎	4. 巻 1
2. 論文標題 文献に見える中国古代の「関」と「津」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津に関する環境史学的研究」報告書	6. 最初と最後の頁 87-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩沢裕仁	4. 巻 1
2. 論文標題 城壁・烽火台遺構よりみた関城址	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津に関する環境史学的研究」報告書	6. 最初と最後の頁 9-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小方 登	4. 巻 1
2. 論文標題 衛星画像とDEMから読み取る潼関付近の地形環境	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津に関する環境史学的研究」報告書	6. 最初と最後の頁 51-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇都宮美生	4. 巻 1
2. 論文標題 長安・河東幹線道における蒲津橋と東渭橋	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津に関する環境史学的研究」報告書	6. 最初と最後の頁 63-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦典弘	4. 巻 97-1
2. 論文標題 五臺山佛光寺の唐代の経幢	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大谷学報	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小方登	4. 巻 1
2. 論文標題 衛星画像と地形データ (DEM) を利用した歴史的場所の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『中国前近代の関津と交通路』	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻 正博	4. 巻 1
2. 論文標題 潼関の廃置・移設と武則天の「神都圏」構想	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 15-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福原啓郎	4. 巻 1
2. 論文標題 蕭関の機能的特徴と地理的位置についての一考察 とくに旧関関係史料の分析に重点を置いて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 39-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川順二	4. 巻 1
2. 論文標題 黄河下流平原の「津」 リモートセンシングデータを利用した黄河古河道復元	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 57-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇都宮美生	4. 巻 1
2. 論文標題 唐代の蒲津渡と東渭橋をつなぐ交通路	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 89-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦典弘	4. 巻 1
2. 論文標題 唐宋時代における僧侶の旅と交通 過所・公験・公憑	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 105-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千田 豊	4. 巻 1
2. 論文標題 鶏鳴駅の変遷 堡・駅から観光施設へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 125-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島泰雄	4. 巻 1
2. 論文標題 蜀道から考える関塞としての秦嶺	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 133-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻 正博	4. 巻 1
2. 論文標題 黄巷・金とう関と潼関 関所の移置と街道の変遷	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 149-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森谷一樹	4. 巻 1
2. 論文標題 河西回廊における遺跡・交通路・オアシスの位置関係 漢代・唐代の敦煌と瓜州を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 175-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩沢裕仁	4. 巻 1
2. 論文標題 太行けい・白けい古道の歴史的意義 古道関連の関塞・集落遺址調査を踏まえて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 195-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 侯甬堅（翻訳：小野 響、監訳：辻 正博）	4. 巻 1
2. 論文標題 武関道から商洛道へ 関中平原～南陽盆地間の交通運輸	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 237-256
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇都宮美生	4. 巻 1
2. 論文標題 前近代中国中原の穀倉の発展と交通路 実地踏査による新知見を交えて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 257-287
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張学鋒（訳：千田 豊、監訳：辻 正博）	4. 巻 1
2. 論文標題 破岡流 建康と三呉の間	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 289-309
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇都宮美生	4. 巻 1
2. 論文標題 前近代中国の運河 洛陽・揚州間の隋・唐・宋運河遺跡をたどって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国前近代の関津と交通路	6. 最初と最後の頁 311-349
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 辻 正博
2. 発表標題 王溥『唐会要』のテキストをめぐって 研究のあゆみを中心に
3. 学会等名 六朝史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻 正博
2. 発表標題 王溥『唐会要』のテキストをめぐって 近年の資料環境の変化を承けて
3. 学会等名 唐代史研究会夏期シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻 正博
2. 発表標題 敦煌・トルファン出土唐代法典文献の残存形態
3. 学会等名 総括国際シンポジウム「断片がつなく世界各地の吐魯番出土文書コレクション」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻 正博
2. 発表標題 潼関と神都 武周時代の四面関
3. 学会等名 六朝史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島泰雄
2. 発表標題 基於实地考察思考珠江三角洲農村的变化
3. 学会等名 2018中国地理学大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島泰雄、小野寺淳、高橋健太郎
2. 発表標題 シンポジウム：中国改革開放40年の再考 フィールド調査の経験から
3. 学会等名 日本地理学会2018年秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島泰雄
2. 発表標題 辛い四川料理とモンスーンアジア
3. 学会等名 日本地理学会2018年秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩沢裕仁
2. 発表標題 日本の禅茶文化与中国漆器
3. 学会等名 南京師範大学考古学系列講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩沢裕仁
2. 発表標題 函谷関・潼関歴史和地理 通過衛星図片・考古方式的探查
3. 学会等名 陝西師範大学西北歴史環境与經濟社会発展院講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 辻 正博
2. 発表標題 《政事要略》所引《会要》内容初探
3. 学会等名 敦煌吐魯番法制文献与唐代律令秩序學術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 辻 正博
2. 発表標題 唐史研究資料の諸問題 資料環境の変化に着目して
3. 学会等名 中国政法大学名家論壇（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 辻 正博
2. 発表標題 德国柏林国立図書館蔵 玉篇 残片小考
3. 学会等名 “絲綢之韜与新疆出土文献” 国際學術研討会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 辻 正博
2. 発表標題 有關唐代編纂資料的幾個問題 以近年資料環境的變化為著眼點
3. 学会等名 廈門大學歷史系中國史系列講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 辻 正博
2. 発表標題 《政事要略》所引《会要》内容小考
3. 学会等名 第3届「中国法律史前沿問題」學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小島泰雄、筒井一伸
2. 発表標題 シンポジウム「田園回帰と地理学理論」の視圈
3. 学会等名 日本地理学会2017年秋季学术大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小島泰雄
2. 発表標題 深せんの農村はいかにして無くなったのか
3. 学会等名 日本地理学会2018年春季学术大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 内山雅生編、小島泰雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 263
3. 書名 中国農村社会の歴史的展開 社会変動と新たな凝集力	

1. 著者名 秋山元秀ほか編、小島泰雄	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 1248
3. 書名 世界地名大事典 第1巻 アジア・オセアニア・極 <アーテ>	

1. 著者名 秋山元秀、小野有五、熊谷圭知、中村泰三、中山修一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 1208
3. 書名 世界地名大事典 第1巻 アジア・オセアニア・極 <トーン>	

1. 著者名 福原啓郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 福原啓郎（私家版）	5. 総ページ数 109
3. 書名 国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津に関する環境史学的研究」報告書	

1. 著者名 辻 正博	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 386
3. 書名 中国前近代の関津と交通路	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小方 登 (OGATA Noboru) (30160740)	京都大学・人間・環境学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	塩沢 裕仁 (SHIOZAWA Hirihito) (70414076)	法政大学・文学部・教授 (32675)	
研究分担者	小島 泰雄 (KOJIMA Yasuo) (80234764)	京都大学・人間・環境学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	福原 啓郎 (FUKUHARA Akiro) (60221537)	京都外国語大学・外国語学部・教授 (34302)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	宇都宮 美生 (UTSUNOMIYA Miki)	法政大学・文学部・准教授 (32675)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	森谷 一樹 (MORITA Kazuki)	法政大学・大学院特定課題研究所・特任研究員 (32675)	
研究協力者	千田 豊 (SENDA Yutaka)		
研究協力者	堀井 裕之 (HORII Hiroyuki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際学術シンポジウム：古道・関塞遺址調査に基づく前近代中国主要交通路の研究	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------